

なお、最近のいんげんの市場での評価は、関東（東京周辺）の市場では、ケンタッキーワンダーのようなつる性で、さやのくびれた平さやタイプが価格は高いが、関西（京阪神周辺）の市場では、スノークロップのような丸さや・すじなしを好む傾向が強く、当社においても、丸さや・すじなしに対する認識が高まり、有利に販売されております。これらを十分考慮に入れて、出荷先に合せた品種の選定が今後特に必要となります。

む す び

以上、イチゴ・トマトの産地が連作障害と労働力の高齢化によって衰退していたが、「スノークロップ112」の導入により活性化し、いんげんの産地づくりへと躍動を始めた一事例を紹介しました。しかし、発足して日は浅く、ようやく産地づくりの緒についたところですが。農協を核に、関係各機関との連携を一層密にし、産地の拡大と定着化を目標に努力が続けられております。

北海道の檜山南部におけるさやいんげん「スノークロップ112」の栽培事例

檜山南部地区農業改良普及所

専門普及員 **松 村 敏**

檜山南部地域の農業経営は、稲作を中心とした小規模経営が多い。近年、水田転作の関係などから、各町とも複合経営の推進に野菜振興を計画している。野菜品目の選定にあたっては、小規模経営者に対し、労働生産性の高い集約的品目を選定・振興している。

さやいんげんは、道内市場を対象に、今までは平さやいんげんを数戸の農家が栽培し、出荷していた。

「スノークロップ112」の栽培動機は、関西市場視察による作付誘導により、関係機関と協議の結果、地域適品目として作付された。

昭和61年の栽培面積は厚沢部町1.3ha、江差町0.7haで合計2.0haである。作付初年目は、5月中旬～7月までの天候不順の影響が大きかったも



厚沢部町における「スノークロップ112」の生育状況（昭61.7）

の当初計画以上の生産性であった。これらことから当地域では今後作付拡大が期待されている品目である。

月	5			6			7			8			9			10		
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
作型	No.1	●	●															
	No.2			●	●													
	No.3					●												
	No.4							●										

図1 いんげん「スノークロップ112」の作型（檜山南部地域）

昭和61年の栽培事例を紹介するが、栽培初年目であり、今後への検討事項も多い。

1 作 型

作型は、露地の普通栽培で、7月下旬～9月下旬を出荷目標に作型 No.1～4 で継続出荷を計画した。

作型設定に対する昨年の生育は、天候不順や強風により、作型 No.1 と No.2 は同時期の収穫となった。また、収穫期間も当初計画より長く作型 No.1, No.2 主体の播種であったが、出荷期間は8月上旬～10月上旬までとなった。

今後は、作型 No.3 設定の検討や、トンネル栽培による7月下旬の安定生産、または、早生品種作付による継続出荷を計画している。

2 圃場の選定

圃場は、地下水位が低く、前作に豆類を栽培していない畑を選定し、転作畑の場合は明きょの設置を助言している。

3 土壌改良及び施肥

土壌改良は、pH の改良を主体に実施しているが、当地域は、土壌改良を要する圃場が多いので、圃

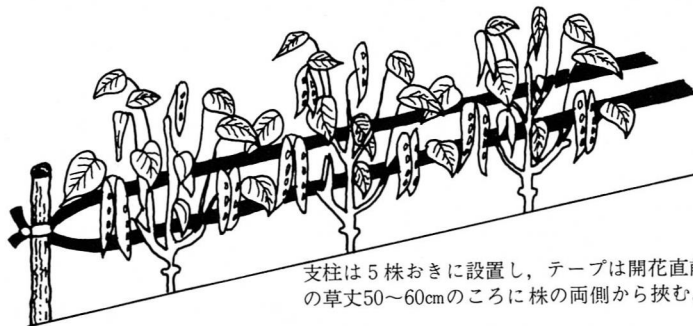


図4 支柱・テープによる倒伏防止対策例

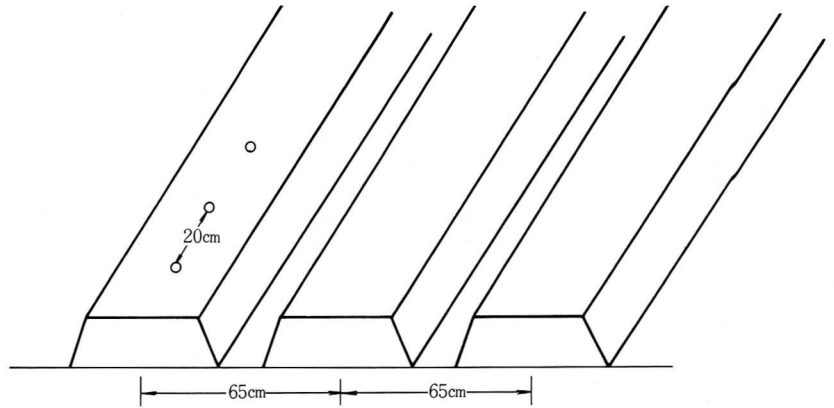


図2 1条植えの例

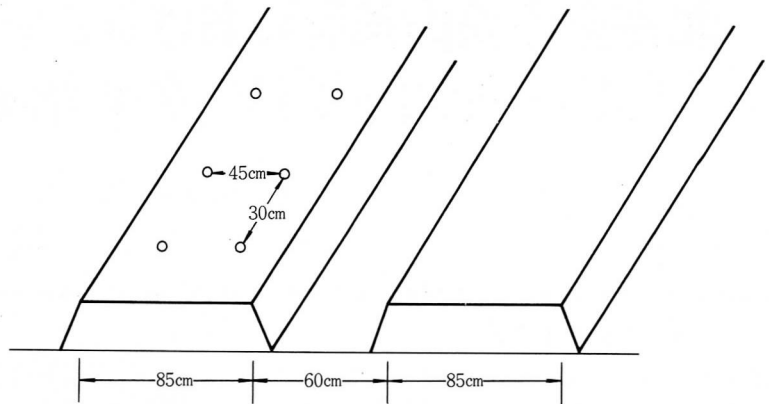


図3 2条植えの例

場条件により多項目分析を計画している。

施肥は、根粒菌の窒素固定があまり期待できないとのことなので、他の豆類より多肥とし、窒素形態も硝酸態窒素比率のやや高い銘柄を選定した。

有機物施用 (a 当り)

完熟堆肥 200～300 kg

pH の改良

pH 6.0～6.5

施肥例 (a 当り)

窒 素 0.8～1.2 kg

リン酸 1.1～1.6 kg

カリ 0.8～1.2 kg

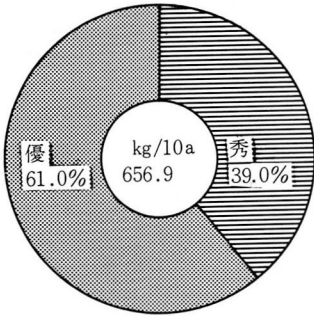
施肥量は、おおむね適量と思われるが、ハウス跡地や野菜畑で熟畑化された圃場は徒長となった。

また、長期どりが可能と思われるので、遅効性肥料の混用も検討している。

等級	階級	長さ	莢幅	標準形態													箱詰め方法 (2kgダンボール箱詰め)
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
秀品	S	10cm以下	0.7~0.8cm														
	M	10~13cm	0.8~1.0cm														
	L	13cm以上	1.0cm以上														
優品	秀に同じ																秀に同じ

図5 いんげん選別規格表

A 農協秀・優出荷%



B 農協秀・優出荷%

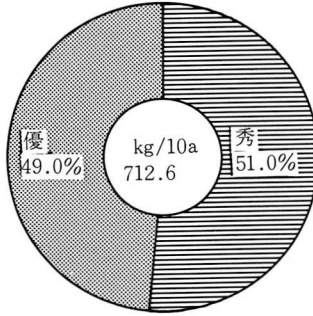
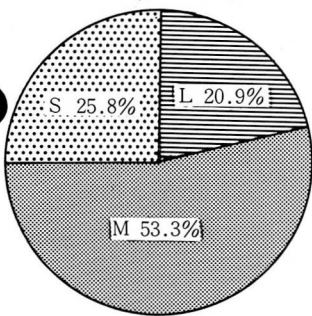


図6 農協別秀品・優品の出荷割合

秀品の規格%



優品の規格%

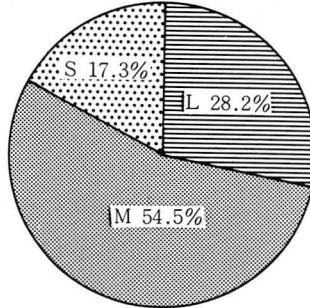


図7 B農協秀・優品の規格割合

4 圃場準備及び播種

耕起は、根群分布及び根群の酸素要求量などを考慮し、深耕とする。

栽培法も病害の発生や雑草発生防止のため、全作型グリーンマルチか黒マルチを被覆し、高畦栽

培とした。

栽植密度は、1ベット1条播種、1ベット2条播種が実施されたが、収量・品質・収穫作業の面から、1ベット1条か2条播種の生産性について、展示圃設置を計画している。

しかし、昨年は初期生育からの強風により、生育遅延があったので、本年は防風網などの設置を関係機関と指導している。

6 病虫害防除

昨年は、当地域で豆類に発生した根腐病がさやいんげんにも発生した。また、連作圃場で菌核病が発生したものの全般的に病虫害の発生は少なかった。しかし、今後栽培の経過とともに発生が予想されるので、早期防除が重要と思われる。

7 収穫

収穫はM、Sを中心に収穫し、大阪・名古屋市場へ出荷された。収穫作業は、栽培初年目だったことと、作型No.1とNo.2の同時期収穫になったため、適切な収穫ができない傾向だった。

今後は、栽植密度、作型、作付面積の検討で、市場性の高いさやいんげんを出荷する必要がある。